

2021年10月22日

「ExTorch Open Innovation Program」の 中間成果発表会を実施

NTT コミュニケーションズ株式会社（以下 NTT Com）は、NTT グループが保有するサービス、技術、インフラなどの豊富なリソースを活用し新たな価値を共創する、オープンイノベーションプログラム「ExTorch Open Innovation Program」（以下 本プログラム）の中間成果発表会を、2021年10月22日に開催します。



1. 概要

本プログラムでは「世界中のインフラと熱い想いをつないで、人類の未来に貢献する」ことをめざし、2021年4月より、5つのテーマについて6社の共創パートナーおよび1社のアドバイザーパートナーと共に、事業化を見据えたアイデア創出や実証実験に取り組んできました。

2. 発表内容

中間成果発表の内容は以下の通りです。

テーマ① 船舶 IT 技術を活用した新たな海洋ビジネス

パートナー：[株式会社オーシャンアイズ](#)



＜プロジェクトメンバー集合写真＞
ケーブル敷設線「SUBARU」を背景に撮影



※十分に感染対策を行った上で、撮影時のみマスクを外しています

テーマ①では、船舶という特殊な環境下において安全運航に不可欠な精度の高い気象・海象^{※1}情報が、十分に得られないという課題に着目し、すべての船舶が安全に運航できる社会の実現をめざします。

海洋に関するデータ解析に強いオーシャンアイズと船舶運航に豊富な知見を有する NTT ワールドエンジニアリングマリンが共同で気象・海象情報のオープンプラットフォームの開発を行います。

今後は、個々の船舶で把握した情報を集約・統合解析し、解析結果から精度の高い気象・海象の現時点情報や予測を各船舶に配信する仕組みを構築し、船舶運航に関わるお客さまと共に実証実験を進めていきます。

テーマ② 完全無人化された次世代データセンターの創出

パートナー： [THK 株式会社](#)、 [東京通信機工業株式会社](#)

アドバイザーパートナー： [RobiZy](#)



＜ロボットを操作している様子＞



テーマ②では、NTT グループが国内外に多数保有するデータセンターおよび設備のオペレーションにロボットを導入することで、省力化を図り無人運用できる次世代データセンターの創出をめざします。

現在 THK が有する人型の自律移動ロボットと、東京通信機工業が有するレール型ロボット^{※2}を NTT Com のデータセンター内に配備し、入館アテンドや巡回警備、設備点検、在庫確認などの運用業務効率化に向けた実証実験を行っており、生産性向上の効果について検証を進めています。

今後は、実証実験で得られた知見をもとにしたロボットやソフトウェアの開発、RobiZy が運営するロボット関連企業とのコンソーシアムなどを通じ、さまざまなインフラ設備で活用できる新たな無人化サービスを創造していく予定です。

テーマ③ 通信ビルを活用した新たなサービスの創出

パートナー： [株式会社ジャパン・インフラ・ウェイマーク](#)



＜津市の通信局舎屋上のドローンポート＞



テーマ③では、設備点検などにおける技術者の高齢化や、点検コストの効率化ニーズに対応するため、ドローンの自動航行を実現する「Sharing Drone Platform」サービスの確立をめざします。本取り組みではジャパン・インフラ・ウェイマークのドローン運用ノウハウを活用し、NTT Comグループの通信局舎をドローンポートとして利用します。

今年度は、三重県津市の NTT Com 通信局舎の屋上や駐車場、局舎内にドローンポートを配備し、ドローンの自動航行による鉄塔や局舎壁面の点検を実施します。

この取り組みを通じて運用ノウハウを蓄積し、2022 年度以降はドローンが複数ビル間を自動航行で移動し点検を行う実証実験と、その商用化に向けた機能要件の明確化を行う予定です。

テーマ④ コミュニケーション AI「COTOHA[®]」を活用した外部 SaaS 連携による新たなサービス

パートナー：[株式会社エクセリーベ](#)



テーマ④では、コロナ禍により大きな社会的課題となっているメンタル不調をなくすべく、その予防および不調の早期発見による適切な対処の実現をめざします。

エクセリーベの持つメンタルトレーニングメソッド「マインドゆるネス」と、NTT Com が持つ AI 電話応対自動化ソリューション「COTOHA Voice DXTM Premium」を組み合わせ、AI との日々の音声対話を通じて「自然にストレスチェックができ、自分の心の状態を知ること」および「ストレス耐性を高めるメンタルトレーニングを継続すること」をサポートします。2021 年 11 月から NTT Com 社内において実証実験を行い、利用前後におけるストレス度合いの変化や AI の対話精度の検証を行います。

テーマ⑤ Smart Data Platform を活用した生育支援業務の自動化・高度化

パートナー：[PLANT DATA 株式会社](#)

<人工光植物工場>



テーマ⑤では、農作物における栽培管理の自動化・見える化により、農業従事者数の減少やノウハウの技術継承などにおける課題解決をめざします。

PLANT DATA の植物の生育状態を感知・データ化する計測 IoT 機器から得た情報を、NTT Com の「Smart Data Platform」^{※3} に蓄積・分析することで見える化し、水分量や温度など最適な栽培管理方法を農業従事者に提示します。

また、2022 年までに計測可能な情報の種類を拡充させ、国内だけでなく海外の農業市場への展開をめざします。

3. 今後について

今後、2021 年末を目途に、各取り組みの継続実施について判断を行い、継続する取り組みに関しては事業化を推進していく予定です。

NTT Com は、事業ビジョン「Re-connect X™」にもとづき、生活者・ビジネス・社会を、安心・安全かつ柔軟に「新たな価値でつなぎなおす」ICT サービス・ソリューションを提供し、ニューノーマルの世界におけるサステナブルな未来の実現に貢献していきます。

Re-connect X™

<https://www.ntt.com/about-us/re-connectx.html>

※1：海象とは、波浪、潮流、潮汐、水質、水温、潮位などの海洋でおきる現象をさします。

※2：遠隔制御によりレールに吊り下げたカメラを前後・上下方向に操作することができ、カメラ 1 台でフロア全体の状況把握や現地作業支援が実現できるロボットです。

※3：「Smart Data Platform」は、データ利活用に必要な収集・蓄積・管理分析におけるすべての機能を、ICT インフラも含めてワンストップで提供し、データ利活用による DX 実現を加速させるプラットフォームです。詳しくは下記 Web サイトをご覧ください。



<https://www.ntt.com/business/sdpf/>